

令和5年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	55	学 校 名	相良高等学校	校 長 名	朝倉 徹
------	----	-------	--------	-------	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	自律した生活習慣を確立し、他者の心情や立場を尊重することができる豊かな人間性を持った生徒を育成する。	規律ある生活習慣を確立している生徒 80%以上 遅刻者 1 日 2 人以下	校則遵守 97.1% 挨拶心掛け 97.8%	A	校内での挨拶や言葉遣いを意識できる生徒は増加していると感じる。頭髪や服装も含め、校内だけでなく、校外でも相高生の自覚ある行動を求めたい。特定の生徒の遅刻も改善の兆しがあり、遅刻指導により生徒の意識向上を図っている。
		交通事故件数 5 件以下 自転車指導カード交付枚数 100 枚以下	交通ルール・マナー等の遵守 94.9%	A	交通安全担当の指導により、カード交付数は大幅に減少した。 (R5,57 件) 今後も継続し交通安全意識の向上を図りたい。
		自己肯定できる(自尊感情が持てる)生徒 70%以上	学力・技能向上の実感(授業)88.6% 自分の良いところを自覚 75.2%	A	自己肯定感は獲得できている。学習及びSCH活動、部活動、サークル活動等で、目標を持って活動し、自信につながる取り組みを増やしたい。
		部活動等各種活動に熱心に取り組んだ生徒 80%以上	諸活動への積極参加 91.7%	A	コロナとインフルエンザの流行で対応の難しい時期もあったが、高い水準を達成することができた。各活動を通して生徒の自己肯定感や主体性の育成につなげていきたい。
		いじめアンケートを年3回、個人面談年3回・保護者面談年1回実施、いじめに関連する校内研修を実施	アンケートは毎学期に計3回実施。いじめに特化した校内研修実施。	A	いじめに関する職員研修の機会を設け、いじめの定義等について改めて確認し、組織的な対応を心掛けることを全体で共有することができた。併せて、いじめに関する生徒指導内規を改定した。
イ	基礎的知識や技能(技術)を習得し、学習成果を積極的に活用する態度を身に付けるとともに、探究的な学びを深め、実践を伴う課題解決学習を促進	毎日学習課題に取り組む生徒 50%以上 スタサプの利用率 80%以上	授業時間外学習への取組 45.1%	B	一人一台パソコンを活用してスタサプを利用した課題配信等を行った。生徒による取組の温度差があり、定着にはいたっていない。また、新たに教員の負担が増加するなど課題も見られる。 「授業時間外学習」の時間について

様式第3号

	する。				ては、アンケートの時期や選択肢によって変化がみられる。精度を高めたい。
	主体的に探究活動に取り組んだ生徒 80%以上	3学期に、1年間の成果をまとめ、全ての生徒が発表する機会を設けた。	A		今年度から、実践を伴う課題解決的な「総合的な探究の時間」をスタートさせた。各教科の授業においても、探究的な授業の展開を意識し授業改善等を推進した。実践を伴う活動を展開するなかで、生徒は主体的に活動に取り組む場面が大幅に増加した。
	授業改善に向けて授業を工夫した教員 70%以上	授業改善を意識した教員 94%	A		新学習指導要領における観点別評価を踏まえて、生徒の学習状況を適切に把握し、学習状況の改善につながるように、授業改善をしながら、授業デザインを考えている。また、今年度より一人一台パソコンが導入され、適切な場面で ICT 活用が進むように工夫をしている
	授業や探究活動に ICT を積極的に活用した生徒 100%	授業への取組向上 88.3%	B		C ラーニング、Google クラスルームは授業において、活用している。Google スライド、Jambord 等は総合的な探究の時間において、活用している場面が見られる。
	「SCH 地域活動相高プロジェクト」参加生徒延べ数 300 人以上	地域活動への参加意欲 69.5%	A		昨年並みの依頼数（40 件）であったが、参加人数は 500 人を超え、昨年比 1.5 倍の増加傾向であった。SCH 活動と総合的な探究の時間、課題研究などの授業が効果的にリンクできるような形を整えていきたい。
	年間読書数 3 冊以上 探究活動で達成感を感じた生徒 80%以上	読書 3 冊以上 41.0% 読書への興味 45.1%	B		学習室として放課後を中心に継続利用があった。授業等での活用も含め、毎月の朝読書週間、図書館だよりの発行や POP コンテストなどにより、生徒の本への興味を養った。また、司書が蔵書の整理、除籍など、利用しやすい図書館を目指し取り組んでいる。

様式第3号

ウ	進路指導体制や指導計画の充実を図り、早期からキャリア教育を実施することで、生徒一人ひとりが主体的に進路を選択していく能力を育成する。	進路目標達成のために、3年間継続的に努力できた生徒 80%以上	進路目標達成の努力 88.9%	A	先生方の取組みにより、各項目で十分な成果を上げた。従来のジョブシャドーイング、進路ガイダンス等に加え、昨年度からインターンシップ導入し、更なるキャリア教育の充実により生徒の進路希望実現に向け取り組みたい。
		本校の進路指導に満足している生徒(3年生)80%以上	進路指導満足度 84.8%	A	3年生に対しては年度当初から大学、専門学校、就職のグループごとでの指導を行った。面接や各種の情報伝達など早期の指導を心掛けたい。
		希望進路への合格率 80%以上	希望進路への合格率 89%	A	添削指導や面接練習などで多くの教員の考えを収集していく中で、進路実現とともに自らの生き方を見つめ直すことができた。
		年度内就職内定率 100%	年度内就職内定率 100%	A	多くの生徒が自分のやりたいことを基準に企業研究を行い応募につなげた。
エ	保護者や地域等との連携や交流をとおして、生徒の教育環境の充実を図るとともに、地域から信頼される学校となるための取組を推進する。	本校の教育活動に満足している保護者 80%以上 中学生に対するアンケートで、ホームページやSNSが参考になったという回答 80%	学校生活満足度 83.5%	A	「保護者アンケートの結果を見ると、学校への信頼度は高いと感じる。情報発信については、1年部ではCラーニングを使って、オープンキャンパスなどの進路情報を保護者の方も閲覧できるようにしている。他学年も公開できるように今後改善を目指したい。生徒の様子等については、ホームページ、Instagram等で情報発信に努めた。
		校内防災訓練 3回以上 地域防災訓練 参加率 80%以上	校内防災訓練 3回 地域防災訓練 参加率	B	防災訓練を定期的に行うことで、生徒の防災意識の高揚を目指した。地域防災訓練への参加率を高めるため、部活動をオフにすることを試みた
		「教育相談だより」年3回以上発行 資質向上のための職員研修 年2回	教育相談だより 2回発行(評価時点) 教職員研修年 2回実施	A	日常的に生徒相談室及び保健室を主体として、悩みを持つ生徒に対応できる体制をとっている。教育相談担当、養護教諭、スクールカウンセラーが連携しケース会議を行うなどの対応をしている。

様式第3号

		清掃活動を通して環境美化を意識することができた生徒 80%以上 学期に1回安全点検	清掃活動への取組 97.1%	A	環境美化意識は多くの生徒が意識している状況である。ごみの持ち帰りと合わせ、生徒の環境問題への意識が高まっていると感じる。また、学習環境を整えるよう点検に努めた。
		事務室は充実した教育活動が行えるように支援していると回答する教職員 80% 物品の現物確認等 年1回	教職員相互の意思疎通ができています。	A	学校経営予算が減額していく中でも、事務室においては円滑な教育活動が行われるよう尽力した。 安全点検は管理当番・労務職員の毎日の見回りが中心である。
オ	協力し合える教職員組織づくりに努め、資質向上や働き方改革を進めることで、円滑な学校運営を実施する。	勤務時間管理システムの利用による自己管理 100% 夏季休暇取得率 100%	勤務時間管理システムの利用率は 100% 夏季休暇取得率 98.7%	A	勤務時間管理システムの利用により勤怠管理への意識が高まった。夏季休暇取得は、コロナウイルス感染症に罹患し、完全消化できない教員が1名いた。 さらに自己管理を進めるため、意識目標として「完全退勤時刻」を設定し試行している。業務が集中する時期があるため、徹底はできていないが、退勤時刻に対する意識は高まった。 職員減に伴い、各個人の仕事量の増加など負担に感じる部分も多いと感じる。教職員が心にゆとりをもてる働き方を目指して取り組みたい。
		やりがいをもって仕事のできた教員 70%	授業改善に向けて授業を工夫した 94% やりがいや張り合いをもって持って仕事のできた 90% ¥	A	昨年度より上昇している。学校行事が通常に戻るなど、生徒と共に活動する日常が戻ってきた。そこに教員はやりがいを感じている。このことが授業改善意欲等にも表れている。
		信頼できる先生がいると思う生徒 70%	信頼できる先生の存在 83.3%	A	昨年度よりも向上している。教員のやりがいと密接にかかわっており、教員が積極的に、丁寧に生徒に関わっていることがうかがえる。